

日本の伝統・文化を継承する若者たち

# 明日への扉

Door to Tomorrow



Yuji Mochizuki

1978年静岡県生まれ。静岡市内で代々人形制作を営む「望月人形店」の長男として生まれる。25歳で人形師となることを決意し、以後、父である師匠の下で研鑽の日々を送る。



駿河雛人形(するがひなにんぎょう)

菅原道真を祭った天神信仰に基づく天神人形に、衣装を着せた物がルーツとされる。静岡は徳川家康の庇護を受けて栄えた地であり、全国から豪華な織物を始め多彩な材料が集まったため、質の高い人形がつけられた。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE WebやTVなどでお楽しみいただけます。

Web版  
パソコンやタブレットでもご覧になれます。本紙掲載以外に、多数の若者たちをご紹介します。

アットホーム明日への扉

検索



TV番組  
ディスカバリーチャンネル(CS) 冠番組  
「アットホーム presents 明日への扉」放映中  
毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン  
ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!! 最新号のご案内 好評公開中

No.078/浄法寺塗・塗師 岩館 巧氏

Discovery CHANNEL

## 駿河雛人形師

望月 勇治 氏

代々受け継ぐ技で、人形に雅な命を吹き込む。

名峰富士を望む地に、古くから伝わる工芸品がある。地元の人たちに「ひいなさん」と親しみを込めて呼ばれる駿河雛人形だ。学問の神として名高い、菅原道真の姿をかたどった天神人形が起源という雛人形は、江戸や京都のそれに負けない完成度を誇る。

望月勇治さんはふるさとの伝統を後世に残すべく、日々人形づくりに勤しむ職人。この世界に入り、十年を超え、歳月を修業に費やしてきた。

きっかけは？

望月「実家が祖父の代から続く人形店なんです。一度外の世界を見てみようとの仕事をしてから父に弟子入りしました。幼いころより人形に親しんできたので、やはり大好きなんです。ね。つくっていると楽しいんです」

工房には京都の西陣や群馬の桐生で

織られた、色も柄もさまざまな生地が集められている。駿河雛人形の命ともいえる、雅な装束の素だ。その設計図となるのは代々受け継がれる寸法帳。大きさを形に合わせて細かく記された寸法に従って、和紙を切り分けていく。

そして和紙を生地の裏に貼り、襟、身頃、袖などの部位ごとに裁断。その数は数十点にもなり、姫の場合は十二単の装束を忠実に表現するため、外からはわずかししか見えない裏地も色を変えて用意する。より精巧な作り込みのため、一重だった殿の袴を二重にするなど、独自のアイデアを凝らすことも忘れない。装束の再現には資料の徹底調査を心掛ける。これも楽しみの一つという。

ミリ単位の精度にこだわり仕立てた装束を、薬や木毛でつくった体にさせていく。全体のバランスを整えながら幾重もの装束をまとわせ終わると、腕を曲げる。雛人形の良し悪しはこの曲げで決まるとされるほど、重要な作業。

袖の出し具合に配慮しながら、最も優雅に見える角度に腕を曲げ、体に頭を付けると出来上がりだ。

今後の抱負は？

望月「まだ自分の仕事に満足できていません。人形を十体つくっても、全部を同じように仕上げるのができないんです。そういったムラをなくすことが今の一番の課題ですね」

若き人形師はこれからも、多くの人形をつくり続ける。己の全てを人形に注ぎながら、なぜなら、手にした人にはただ一つの人形だから。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2013年12月取材。掲載内容は取材当時のものです。

MOVIE MORE!!  
人形づくりに喜びを感じながら、ひとすらいに打ち込む姿を動画で紹介しています。ぜひご覧ください。